

来春入園「保活」ポイントは？

来年四月の入園を目指す保育園選びの活動「保活」が始まっている。新型コロナウイルスの流行を受け、手続きにインターネットを活用する自治体も出てくる中、どのように保育園を選び申し込めばいいか戸惑う人はいるかもしれない。専門家にポイントを聞いた。(藤原啓嗣)

自治体 コロナ受けネット活用広まる

「子どものやってみてみたい」という気持ちを育てる保育を目指しています。九月下旬、名古屋市瑞穂区の市立軍水保育園。入園希望者向けの見学会には、保護者四人が参加していた。

同園では二年前から、コロナの影響で一日の見学者数を十組以内に絞り、時間を三十分に縮めている。野村悦子園長(五七)は「保育園のことを知らない人も多い。普段の様子を見てほしいので、感染対策しながら見学を受け入れている」と話す。

九カ月の子どもの預け先を探す同市天白区の女性会社員(三三)にとって、この日の見学会は五方所目。「園児があいさつしているかとか、ありのままの姿を見て、自分たちに合った保育園を見つけない」と語った。



八月末に発表された今春の全国の待機児童数は、コロナによる預け控えや少子化で、前年の半数ほどの二千九百四十四人。五年前の約一割に減ったが、名古屋市での利用申し込みは前年から四百二十五人増。市の担当者は「この状況はしばらく変わらないだろう」と話す。都市部を中心に保活

軍水保育園の保育士の説明を長男と聞く女性も。名古屋市は10月から申し込み書類を配る＝名古屋市瑞穂区で

は欠かせない。

コロナの流行はこの保活にも影響を与え、昨年までは見学を見合わせた保育園も。名古屋市は外出や接触の機会を減らすと、オンラインでの入園申し込みを昨年からはじめ、同様の動きは東京などでも。また、同市は今年、自宅でも情報を集めやすいように、動画「保育施設の利用に関するはじめの



一步」を公開＝QRコード。制度や手続き、施設の探し方などが学べる。

複数の園見学 年長クラスも

では今、保活をどう進めていけばいいのか。保育に詳しい金城学院大人間科学

部の日比野直子准教授(五七)が勧めるのは、まずはこうした基本情報も参考にしながら、自治体のホームページなどで申し込みのルールを確認。次に、自宅から近い、通勤に便利、保育方針が合うなどの観点から複数の園をリストアップし、見学を申し込みことだ。

職員の関係性 掲示物も見て

今年には事前に申し込み、見学可能な園が増え、徐々にコロナ前の状況に戻ってきているという。「ミスマッチを防ぐために見学はしてほしい。自分の子どもの将来像を知るために年長クラスの様子を見るのもいい」。ゼロ〜二歳児を預かる小規模保育園では、三

歳以降はどの園へ進むことが多いかなどを尋ねておくという。

三人の子どものが保育園に通った子育てアドバイザー高祖常子さん(六三)は「保育士同士が互いに声掛けして関係性が良いかや、掲示物も見て」と促す。保育士同士の連携が密だと、さまざまなミスが防ぎやすい。園児の絵や活動を知らせる掲示物からは、園の保育方針などを理解しやすいという。安全面では、乳幼児突然死症候群(SIDS)の防止策の確認も重要だ。「園への道順や駐車場、駐輪場など実際に通つことを想定し、自分の体力とも相談して考えて」とも。

園内でコロナ感染者が広がった時の施設の対応も聞きたい。保育園に預けられない場合の対策を立てやすくなる。日比野さんは「感染がどれくらい広がるとクラスが休みになるかなどを尋ねてみては。気になる点はどんどん質問して。保育士の回答が納得できるかも重要」と助言した。